

# Create!Form アップデートマニュアル

[ V7 → V11 ]

- ・ Cast
- ・ Collect
- ・ Print
- ・ PrintStage
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client

2018年8月  
インフォテック株式会社

## 目次

1. はじめに.....	4
2. Create!Form 導入環境.....	5
① Windows 製品のフォルダ構成.....	5
② Linux/UNIX 製品のディレクトリ構成.....	5
3. 互換性に関わる項目.....	6
① 互換性に関わる項目一覧.....	6
② 互換性に関わる項目の詳細.....	7
A. 暗号化モジュールの変更.....	7
B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止.....	7
C. ランタイム実行ログの設定方法.....	7
D. JavaAPI の互換性について.....	8
E. 利用可能な XML データエンコーディングの変更.....	8
F. 同名変数の扱い.....	9
G. 空データに対するデータ編集の扱い.....	10
H. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い.....	10
I. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い.....	11
J. グラフ変数の間隔設定の扱い.....	11
K. グラフ変数の縦書きフォントの扱い.....	12
L. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更.....	13
M. テキスト変数の太字チェックの有効化.....	13
N. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い.....	13
O. プロポーショナルフォントの流し込み出力.....	14
P. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い.....	15
Q. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い.....	15
③ FormCollect 移行について.....	15
④ FormCollect 移行による互換性の詳細.....	16
R. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更.....	16
S. 対応フォントの限定.....	16
T. フォントサイズの制限.....	17
U. 境界線幅の指定方法の変更.....	17
V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異.....	17
4. アップデート手順.....	20
① V11 製品のインストール.....	20
② ユーザー設定ファイルの移行.....	20

③ 互換性に関わる項目の確認.....	24
④ 帳票資源ファイルの変換.....	26
※重要 .....	27
5. 元号対応.....	28
6. おわりに.....	29

## 1. はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のもとの互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または技術の変化や市場のニーズに追従する事などを目的として改良を行います。改良を行う時には従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

本説明書では、Create!Form 製品の以下のバージョンのアップデートについて、詳細に記述しています。

現システムの製品バージョン : Version 7 (以下 V7 と記述)

アップデートバージョン : Version 11 (以下 V11 と記述)

※本マニュアルで、「開発環境」については Create!Form Design、「運用環境」については Create!Form ランタイム製品が導入された環境を示します。

## 2. Create!Form 導入環境

本章では、Create!Form V11 製品の導入ディレクトリ構成について説明します。

### ① Windows 製品のフォルダ構成

Create!Form V11 の Windows 製品では、フォルダ構成を旧バージョンより変更しております。旧バージョンでは1つのフォルダで製品プログラムや設定ファイルを管理しておりましたが、V11 では複数のフォルダで管理します。

本書で示すフォルダ名は表 1 に示すフォルダパスに対応しており、旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は V11 の各 Create!Form のフォルダに移行が必要です。移行先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

表 1：フォルダ名

フォルダ名	製品導入時のフォルダパス初期値
プログラム	※下記のいずれか。 C:\Program Files\Infotec\CreateForm\11 C:\Program Files(x86)\Infotec\CreateForm\11
ユーザー設定(共通)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\private
ユーザー設定(ユーザー)	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\system
ユーザーデータ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var
帳票資源	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\work
テンポラリ	C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\temp

なお、導入環境の各フォルダパスについては Create!Form V11 マネージャにて下記操作により確認してください。

- ① Create!Form マネージャ画面のメニュー「ヘルプ」-「バージョン情報」をクリックします。
- ② 表示される「Create!Form V11 バージョン情報」ダイアログの「バージョン情報詳細」ボタンをクリックします。
- ③ 項目「Create!Form 情報」に表示されている各フォルダパスを確認します。

### ② Linux/UNIX 製品のディレクトリ構成

Create!Form V11 の Linux/UNIX 製品では、旧バージョンと同じディレクトリ構成となり、製品を展開したディレクトリが Create!Form 導入ディレクトリとなります。

旧バージョンで使用していたデータ編集や外字ファイルなどの「ユーザー設定ファイル」は指定のディレクトリへコピーします。コピー先の詳細は「4.アップデート手順」にて説明します。

## 3. 互換性に関わる項目

V11 から一部仕様が変更されたため、出力結果やランタイムの動作において旧バージョンと差異が生じる場合があります。ここでは、どのような差異があるか互換性に関わる項目について説明します。

### ① 互換性に関わる項目一覧

#### [製品プログラム]

- A. 暗号化モジュールの変更
- B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止

#### [全ランタイム対象]

- C. ランタイム実行ログの設定方法
- D. JavaAPI の互換性について
- E. 利用可能な XML データエンコーディングの変更
- F. 同名変数の扱い
- G. 空データに対するデータ編集の扱い
- H. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い
- I. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い
- J. グラフ変数の間隔設定の扱い
- K. グラフ変数の縦書きフォントの扱い

#### [Windows ランタイム対象]

- L. EXE ランタイム（Windows 版）の戻り値の変更

#### [Cast / Print ランタイム対象]

- M. テキスト変数の太字チェックの有効化

#### [PrintStage / PrintStageWeb ・ PrintStageWeb Client ランタイム対象]

- N. 固定テキスト（プロポーショナルフォント）の文字間隔の扱い
- O. プロポーショナルフォントの流し込み出力

#### [PrintStage ランタイム対象]

- P. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い
- Q. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い

## ② 互換性に関わる項目の詳細

### A. 暗号化モジュールの変更

[対象]

- ・ Design、Cast、PrintStageWeb、PrintStageWeb Client

[内容]

V11 では PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能で使用するライブラリを「OpenSSL」に変更しました。この変更に伴い、PDF セキュリティ機能や Web クライアントセキュリティ印刷機能を使用するときは、別途「暗号化モジュール」を導入する必要があります。

[対処]

Create!Form ユーザーサポートサイト (<https://support.createform.jp/>) にて公開している「暗号化モジュール」をダウンロードして導入してください。  
導入方法はモジュールを公開している Web サイトをご確認ください。

### B. 帳票資源ファイル転送ツール「Create!Form FTU」の廃止

[対象]

- ・ 全 Windows 版製品

[内容]

V7 では Linux/UNIX 環境へ帳票資源ファイルを転送するためのツール「Create!Form FTU」を Windows 版製品に付属していましたが、V11 では転送モードを意識することなく運用環境へ配置することが可能となったため、「Create!Form FTU」を廃止しました。

[対処]

FTP 転送ツールや Windows のファイルコピー機能を使用して運用環境へ帳票資源ファイルを配置してください。

### C. ランタイム実行ログの設定方法

[対象]

- ・ 全ランタイム製品

[内容]

V11 ではログローテーション機能の実装に伴い、実行ログの設定方法が変更されました。また、Linux/UNIX 環境では、環境変数による設定方法から設定ファイル (logsetup\_u.properties) による設定方法に変更されました。

[対処]

インストールマニュアルの「1-6-4. ログファイルの出力設定」の内容に従ってログ出力の設定を行ってください。

#### D. JavaAPI の互換性について

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・JavaAPI を利用したランタイム実行

[内容]

製品付属の JavaAPI は、旧バージョンでは “java2create.jar” として提供されていましたが、V11 では “CreateFormLib.jar” として提供されます。

“CreateFormLib.jar” では、新たにランタイム実行用のメソッド等が追加されていますが、“java2create.jar” のランタイム実行メソッドもそのまま使用することができます。

“CreateFormLib.jar” の詳細は、製品付属のオンラインマニュアル「JavaAPI リファレンス」を参照してください。

#### E. 利用可能な XML データエンコーディングの変更

[対象]

- ・全ランタイム製品
- ・XML データマップ形式の帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

V11 では XML データの解析に使用する XML パーサを Xerces-C++(3.1.1)ライブラリに変更しました。このため、XML データで利用できるエンコーディングが以下の様に変更されます。

##### V7 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows  
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16



- ・ UNIX  
SJIS、EUC、UTF-8、UTF-16

#### V11 で利用可能な XML データのエンコーディング

- ・ Windows  
SJIS、UTF-8、UTF-16 （※EUC は使用することができません）
- ・ Linux/UNIX  
UTF-8、UTF-16 （※SJIS、EUC は使用することができません）

## F. 同名変数の扱い

### [対象]

- ・ 全ランタイム製品
- ・ UpToV11 で互換性のチェックを行った際に「**変数名重複**」と指摘されたフォームファイルを V11 で再編集する場合

### [内容]

旧バージョン（V7）では1つのフォームファイルに同名変数名の変数オブジェクトを定義することができましたが、V11 では1つのフォームファイルに同名変数名の変数オブジェクトを定義してフォームファイルを保存することはできません。

### [対処]

同名変数が定義されたフォームファイルを V11 環境で再編集して保存する場合、以下の設定を行ってフォームファイルを保存するか、もしくは、同名変数を別の変数名にリネームして保存し、データマップファイルの修正を行ってください。ただし、以下の設定を行った場合、Print ランタイムの実行において一部の機能を使用することができませんのでご注意ください。

なお、本作業は V11 環境でフォームファイルを再編集しない場合、行う必要はありません。

#### フォームファイル保存手順

1. 同名変数が定義されているフォームファイルをフォームエディタで開きます。
2. [ファイル]メニューの[フォーム設定]をクリックします。
3. [ステータス]タブの[旧来方法の出力位置設定]チェックボックスにチェックを入れます。
4. [OK]ボタンをクリックします。
5. フォームファイルを上書き保存します。

#### 機能制限

- ・ CSV データの集計機能
- ・ CSV データの重複非表示機能
- ・ 動的オブジェクト機能
- ・ オブジェクト色の条件判別機能
- ・ テキスト変数のリスト形式データの出力機能
- ・ 表オブジェクト

### G. 空データに対するデータ編集の扱い

#### [対象]

- ・ 全ランタイム製品
- ・ UpToV11 で互換性のチェックを行った際に「**空データのデータ編集**」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

#### [内容]

フリーフォーマットによるデータ編集を設定している場合、空データに対する編集処理が以下のように異なります。

V7 の場合 . . . データ編集が行われます。

(たとえば、[ins]など文字列付加のデータ編集において、指定文字列が付加されます)

V11 の場合 . . . データ編集が行われません。

#### [対処]

以下の互換設定で、V11 で V7 と同じ出力結果を得ることができます。

#### Windows

V11 の[ユーザー設定(ユーザー)]フォルダ直下の"CreateV11.ini"の[Common]セクションに"DataEditMode = 1"と入力します。

#### UNIX

環境変数 "CREATE\_DATAEDITMODE" に"1"を設定します。

### H. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い

#### [対象]

- ・ 全ランタイム製品
- ・ UpToV11 で互換性のチェックを行った際に「**データ編集の競合**」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

## [内容]

V11 ではデータ編集設定が Form エディタに移動し、フォームファイルの各変数ごとにデータ編集を設定するよう変更されました。この変更に伴い、旧バージョンで 1 つのフォームファイルを複数のデータマップファイルで使用し、且つそれぞれのデータマップファイルで異なるデータ編集を 1 つの変数に対して設定している場合に帳票資源ファイルの修正が必要となります。

なお、この仕様変更の影響があるかどうかは、UpToV11 で互換性のチェックを行うことで確認することができます。

## [対処]

複数のデータマップファイルで共通利用されているフォームファイルをコピー・リネームして、それぞれのデータマップファイルに 1 つのフォームファイルを用意してください。次に、コピー・リネームしたフォームファイルをジョブファイル (.sty) に再登録した状態で UpToV11 を使用して帳票資源ファイルの変換を行ってください。

**I. グラフ変数（積み上げ棒グラフ）の凡例の扱い**

## [対象]

- ・全ランタイム製品

## [内容]

積み上げ棒グラフは、下から上に積みあがって描画されるため、凡例もグラフの描画に合わせて下から上に描画されるように改善されました。

(V7 の場合、積み上げ棒グラフの凡例は上から下へ描画されます)

**J. グラフ変数の間隔設定の扱い**

## [対象]

- ・全ランタイム製品

## [内容]

旧バージョンの棒グラフと横棒グラフの間隔は、第 1 要素の 1 系列目の終わりより第 2 要素の 1 系列目の開始位置までとなっておりましたが、V11 では第 1 要素の最終系列目と第 2 要素の 1 系列目の開始位置までと変更したため、要素の間隔が広がります。

なお、グラフ変数において間隔を設定していない場合、間隔を設定していても 1 つの要素内で 1 つの系列のみを表示している場合は該当いたしません。

[対処]

以下の互換設定で V11 と V7 で同じ出力結果を得ることができます。

### Windows

V11 の [ユーザー設定 (ユーザー)] フォルダ直下の "CreateV11.ini" の [Common] セクションに "GraphSpace=1" と入力します。

### UNIX

環境変数 "CREATE\_GRAPHSPACE" に "1" を設定します。

なお、帳票資源ファイルを編集することでも対応することができます。  
編集方法は、帳票資源ファイルのバージョンアップ後にグラフ変数のプロパティを開き、以下の計算式にて算出される値を「間隔」へ設定してください。

$$\text{V11 で設定する間隔} = \text{V7 に設定されている間隔} - \text{V7 に設定されている幅} \\ \times (\text{1 つの要素で表示する系列数} - 1)$$

## K. グラフ変数の縦書きフォントの扱い

[対象]

- ・全ランタイム製品

[内容]

V7 では、グラフ変数の「ラベル」「凡例」「目盛」「実値」の各テキストに縦書きフォントの設定がありましたが、V11 では縦書きフォントの使用が不可になりました。

[対処]

V7 でグラフ変数の各テキストに縦書きフォントを設定していた場合、以下の互換設定で、V11 で V7 と同じ出力結果を得ることができます。

1. V11 の [ユーザ設定 (ユーザ)] フォルダ直下の "CreateV11.ini" の [Form] セクションに "GraphFontV=1" と入力します。
2. フォームエディタにてグラフ変数のフォントを縦書きフォントに設定します。

※なお、上記設定はグラフ変数のフォントを横書きフォントに変更して保存を行った場合かつ元の縦書きフォントに戻す場合にのみ必要な設定となります。  
アップデートを行った時点では縦書きフォントが横書きフォントに変更されることはありません。

## L. EXE ランタイム (Windows 版) の戻り値の変更

[対象]

- ・ Windows ランタイム製品
- ・ ランタイム EXE ファイル (.exe) を直接呼び出してランタイムを実行している場合

※JavaAPI、.NetAPI を利用してランタイムを実行している場合は影響ありません。

[内容]

以下のランタイム EXE ファイルを直接呼び出してランタイムを実行する場合の戻り値が変更されました。

V7 の場合・・・常に「0」が返ります

V11 の場合・・・正常終了時には「1」、警告、エラー発生時にはエラー番号 (マイナス値 4 桁) が返ります。

### EXE ファイル (.exe)

- ・ CCast.exe (Cast ランタイム)
- ・ CPrint.exe (Print ランタイム)
- ・ CPrintST.exe (PrintStage ランタイム)
- ・ CPCCompress.exe (PrintStageWeb ランタイム)

## M. テキスト変数の太字チェックの有効化

[対象]

- ・ Cast / Print ランタイム製品

[内容]

テキスト変数で「太字」が設定されている場合、旧バージョンでは PrintStage ランタイムでのみ「太字」設定が有効となっていました。V11 では全てのランタイム製品で「太字」設定が有効となります。

## N. 固定テキスト (プロポーショナルフォント) の文字間隔の扱い

[対象]

- ・ PrintStage ランタイム製品
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client ランタイム製品
- ・ UpToV11 で互換性のチェックを行った際に「文字間隔」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

## [内容]

V11 の上記対象ランタイムでは、固定テキストオブジェクトのフォント種別に TrueType フォントのプロポーショナルフォント（可変幅フォント）を設定すると V7 と比較して出力結果が以下のように異なります。

V7 の場合・・・文字間隔が詰まって表示されます

（全角英語を連続で出力すると、文字同士が重なって描画されます。）

V11 の場合・・・正しい文字間隔で描画されます。

## [対処]

以下の互換設定で、V11 で V7 と同じ出力結果を得ることができます。

- ① V11 の[ユーザー設定(ユーザー)]フォルダ直下の”CreateV11.ini”の[Form] セクションに” FTextKerning=1”と入力します。
- ② ①設定の後、フォームエディタにてファイルを再度保存します。

または、①設定の後、UpToV11（資源ファイル変換ツール）でフォームファイルを変換します。なお、この設定は開発環境に設定してください。

## O. プロポーショナルフォントの流し込み出力

## [対象]

- ・ PrintStage ランタイム製品
- ・ PrintStageWeb / PrintStageWeb Client ランタイム製品

## [内容]

V11 の上記対象ランタイムでは、テキスト変数の「流し込み」設定でフォント種別にプロポーショナルフォントが設定されている場合でも、正しい位置で改行されるように処理が改善されました。

旧バージョンの上記対象ランタイムでは、プロポーショナルフォントが設定されたテキスト変数の「流し込み」出力において、固定ピッチのフォント幅を使用して改行位置を算出していました。その為、テキスト変数の定義領域の途中で改行されてしまうことがありましたが、V11 では文字幅を取得して改行位置を算出するように修正されたため、正しい位置で改行されるようになります。

## P. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い

[対象]

- ・ PrintStage ランタイム製品
- ・ UpToV11 で互換性のチェックを行った際に「重ね合わせ(下へ)」と指摘された帳票資源ファイルのランタイム実行

[内容]

テキスト変数の重ね合わせ設定を「下へ」に設定した場合、次のような差が生じます。

- V7 の場合・・・設定が有効とならず、他のオブジェクトよりも前面に表示されます。
- V11 の場合・・・設定が有効となり、他のオブジェクトよりも背面に表示されます。

## Q. 文字間隔設定が設定された縦書きフォント「中央揃え」「下揃え」の扱い

[対象]

- ・ PrintStage ランタイム製品

[内容]

V7 では、縦書きフォントが設定された固定テキストの文字間隔を設定し、「真中揃え」または「下揃え」を設定すると出力結果が以下のように異なります。

- V7 の場合・・・最終行が上にずれて描画されます。
- V11 の場合・・・正しい位置に描画されます。

[対処]

以下の互換設定で、V11 で V7 と同じ出力結果を得ることができます。

1. V11 の[ユーザ設定(ユーザ)]フォルダ直下の”CreateV11.ini”の[Form]セクションに”FTextKerningV=1”と入力します。
2. フォームエディタにてファイルを再度保存します。

### ③ FormCollect 移行について

V11 では、旧バージョンの FormCollect ランタイムにてフィールドオブジェクトとして出力していたオブジェクトを Screen ランタイムで入力フォームオブジェクトとして出力することが可能となります。

旧バージョンでのフィールドオブジェクトの各名称は以下の入力フォームオブジェクトの各名称に変更となります。

旧バージョンでの名称	V11 での名称
・テキストフィールド	・テキストボックス
・コンボボックスフィールド	・コンボボックス
・リストボックスフィールド	・リストボックス
・チェックボックスフィールド	・チェックボックス
・ラジオボタンフィールド	・ラジオボタン
・サブミットボタンフィールド	・サブミットボタン
・リセットボタンフィールド	・リセットボタン
・ボタンフィールド	・ボタン

また、FormCollect ランタイムから Screen ランタイムのオブジェクトへ変換される際に、以下の仕様に変更となります。

- R. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更
- S. 対応フォントの限定
- T. フォントサイズの制限
- U. 境界線幅の指定方法の変更
- V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異

#### ④ FormCollect 移行による互換性の詳細

##### R. チェックボックス・ラジオボタンの十字表現の変更

[内容]

チェックボックス、ラジオボタンの設定で、[オプション]のチェックマーク種別に「十字形」が設定されている場合、HTML 上の表示が以下のように変更されます。

V7 の場合・・・ で表示されます

V11 の場合・・・ で表示されます

##### S. 対応フォントの限定

[内容]

Form エディタ上でフィールドオブジェクトに設定できるフォント種別が変更されました。V11 の場合、以下のフォントのみ選択可能です。

- ・TrueType フォント
- ・Web フォント
- ・font-family 名指定フォント



**T. フォントサイズの制限**

[内容]

Form エディタ上でフィールドオブジェクトに設定できるフォントサイズの制限が変更されました。(※V7.2 は V11 の設定内容と同一です)

V7.0 ~ V7.1 の場合 . . . 0.001 ~ 999.999 で指定が可能

V11 の場合 . . . 2.0 ~ 300.0 (小数点以下 1 桁までの指定) で指定が可能

この変更に伴い、V11 の制限を越えた設定を行っている場合には、以下の値が Form エディタ上で設定されます。

<u>V7.0 ~ V7.1 設定</u>		<u>V11 の設定</u>
0.001 ~ 1.999	→	2.0
300.100 ~ 999.9999	→	300.0

**U. 境界線幅の指定方法の変更**

[内容]

Form エディタ上でフィールドオブジェクトに設定できる境界線幅の指定方法が変更されました。(※V7.2 は V11 の設定内容と同一です)

V7.0 ~ V7.1 の場合 . . . 0.001 ~ 999.999 で指定が可能

V11 の場合 . . . "細"、"標準"、"太"の 3 種類から指定が可能

この変更に伴い、V11 では以下の値が Form エディタ上で設定されます。

<u>V7.0 ~ V7.1 設定</u>		<u>V11 の設定</u>
0.001 ~ 1.999	→	細
2.000 ~ 2.999	→	標準
3.000 ~	→	太

**V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異**

[内容]

Collect ランタイムから Screen ランタイムへの移行により、以下の内容についての仕様が変更となりました。

・ [ページのアクション]、[JavaScript 関数登録] は削除されます。

→ ファイルメニュー [オプション] - [アクション] の以下のメニューが削除されます。

○ ページのアクション

○ JavaScript 関数登録

○ すべての JavaScript の編集

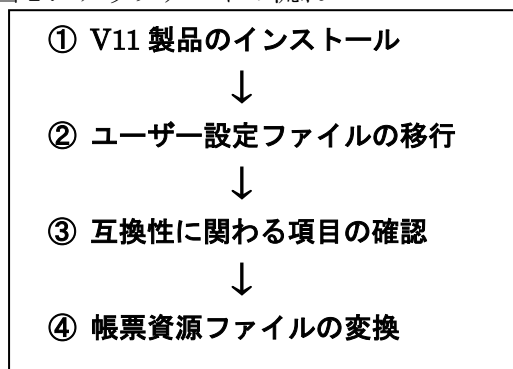
- ・[署名フィールド]オブジェクトは削除されます。
- ・[アクション]、[カスタム JavaScript]は削除されます。  
→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド以外の[アクションタブ]の以下の設定が削除されます。
  - フォームデータの送信
  - フォームデータのリセット
  - フィールドの表示/非表示
  - WWW リンクを開く
  - ビューアメニューの実行
- テキストフィールド[検証]タブの以下の設定が削除されます。
  - カスタム JavaScript を実行する
- テキストフィールド[計算]タブの以下の設定が削除されます。
  - カスタム JavaScript
- ※コンボボックスフィールド[フォーマット]、[検証]、[計算]タブ、リストボックスフィールド[選択の変更]タブの設定は削除されます。
- ・[欧文フォント]は[MS 明朝]に変更されます。
- ・[スペルチェック]設定は削除されます。  
→テキストフィールド、コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ
- ・[編集可能]設定は削除されます。  
→コンボボックスフィールド、リストボックスフィールド[オプション]タブ
- ・[送信データ形式]設定は[HTML]に変更されます。  
→サブミットボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[対象フィールド]設定は[すべてのフィールド]に変更されます。  
→サブミットボタンフィールド、リセットボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[HTML]形式送信種別設定は[POST]に変更されます。  
→サブミットボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[反転]設定は[なし]設定に変更されます。  
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[アウトライン]設定は[なし]に変更されます。  
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[プッシュ]設定時の[押下]、[ロールオーバー]のラベル設定は削除されます。  
→ボタンフィールド[オプション]タブ
- ・[複数行を許可する]設定が無効の場合は「スクロールを許可する」設定は削除されます。  
→テキストフィールド[オプション]タブ

- ・[表示/印刷しない]設定は[表示]設定に変更されます。  
→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ
- ・[非表示/印刷する]設定は[非表示]設定に変更されます。  
→すべてのフィールドオブジェクト[表示]タブ

## 4. アップデート手順

本章では、開発環境へ Create!Form V11 をインストールし、アップデートする手順を示します。

図 1. アップデートの流れ



帳票資源ファイルとは、フォームファイル、データマップファイル、ジョブ（スタイル）ファイルを指します。ユーザー設定ファイルとは、Design 製品を導入する開発環境、帳票出力ランタイム製品を導入する運用環境で使用する設定ファイルです。

### ① V11 製品のインストール

まず最初に V11 製品をインストールします。V11 製品のインストールは、V11 製品の「インストール」マニュアルに沿って行ってください。なお、V7 製品がインストールされた環境と同じ環境へ V11 製品をインストールする場合、V7 製品とは異なるディレクトリへ V11 製品をインストールしてください。

### ② ユーザー設定ファイルの移行

V7 で使用しているユーザー設定ファイルを V11 環境へ移行する作業を行います。ユーザー設定ファイルには、次のようなファイルがあります。なお、運用環境への移行は開発環境で帳票資源ファイルを変更後に実施してください。

- ・ QDF ファイル
- ・ 印刷詳細設定ファイル
- ・ データ編集定義ファイル
- ・ フォント情報定義ファイル
- ・ 外字ファイル
- ・ PDF セキュリティ設定ファイル
- ・ カラーパレットファイル

上記のユーザー設定ファイルに対して V7 環境にて独自の設定を追加している場合、そのファイルを V11 の環境にコピーする必要があります。移行先のフォルダは「2. Create!Form のディレクトリ構成」にて説明したフォルダ名にて説明します。

### 1. QDF ファイルのコピー

V7 で使用している QDF ファイルを、全て V11 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で QDF エディタを使用して QDF ファイルの新規作成及び編集を行っていない場合、以下の作業を行う必要はありません。

#### ■Windows 環境の場合

- ① V11 の[ユーザー設定(共通)]フォルダ直下[qdf]フォルダに配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の拡張子” .qdf” のファイル (QDF ファイル) を全て、V11 の[ユーザー設定(共通)]フォルダ直下[qdf]フォルダにコピーします。

#### ■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に配置されている” default.qdf” ファイルをリネーム(保存用)します。
- ② V7 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の拡張子” .qdf” のファイル(QDF ファイル) を全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下へコピーします。

### 2. 印刷詳細設定ファイルのコピー

V7 で使用している印刷詳細設定ファイル (.ppd、.spd) を、全て V11 の導入環境へ上書きします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンの環境で印刷詳細設定ファイルを使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

#### ■Windows 環境の場合

- ① V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の[ppd]フォルダの拡張子” .ppd” のファイルを全て、V11 の[ユーザー設定(共通)]フォルダ直下[ppd]フォルダへコピーします。

- ② V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の [stypd] フォルダの拡張子 “.spd” のファイルを全て、V11 の [ユーザー設定(共通)] フォルダ直下 [stypd] フォルダにコピーします。

#### ■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V7 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [ppd] ディレクトリの拡張子 “.ppd” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [ppd] ディレクトリへコピーします。
- ② V7 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [stypd] ディレクトリの拡張子 “.spd” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下 [stypd] ディレクトリへコピーします。

### 3. データ編集定義ファイルのコピー

V7 のデータ編集機能においてユーザー定義編集を使用している場合は、定義データ (EFmEdit.dat) のコピーが必要です。ユーザー定義編集とは、インストール時に登録されたデータ編集とは別に、新規に登録した独自のデータ編集のことを指します。この作業は、開発環境に行う必要があります。

なお、ユーザー定義編集を追加していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

#### ■Windows 環境の場合

- ① V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の “EFmEdit.dat” ファイルを V11 の [ユーザー設定(共通)] フォルダ直下へコピーします。

※Windows の運用環境に「EFmEdit.dat」ファイルの配置は不要です。

※Linux/UNIX 環境に “EFmEdit.dat” ファイルの配置は不要です。

### 4. フォント情報定義ファイルのコピー

V7 のフォントマネージャで PostScript フォントを登録して使用している場合、フォント情報定義ファイルを V11 環境へコピーします。

この作業は開発環境 (Design) にて行います。

なお、新規にフォントを登録していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

**■Windows 環境の場合**

- ① V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の” fonts.dat” ファイル、  
” fontnums.dat” ファイルを V11 の[ユーザー(共通)]フォルダ直下へ  
コピーします。

※PostScript フォントを追加している場合、旧バージョンの開発環境の Create!Form 導入フォルダ直下[font]フォルダの” user.fnt” ファイルを V11 の開発環境・運用環境に配置する必要があります。下記のフォルダへ” user.fnt” ファイルを配置してください。

**【Windows】**

V11 の[ユーザー(共通)]フォルダ直下[font]フォルダへコピーします。

**【Linux/UNIX】**

V11 の導入ディレクトリ直下 [font]ディレクトリへコピーします。

**5. 外字ファイルのコピー**

V7 で外字を使用している場合、外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、外字を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

**■Windows 環境の場合**

- ① V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の[font]フォルダの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 の[ユーザー(共通)]フォルダ直下の[font]フォルダにコピーします。

※Windows の[Fonts]フォルダの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を使用している場合は、V11 導入環境の Windows の[Fonts]フォルダに外字ファイルをコピーします。

**■Linux/UNIX 環境の場合**

- ① V7 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の[font]ディレクトリの外字ファイル（標準では EUDC.TTE）を V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下[font]ディレクトリへコピーします。

## 6. PDF セキュリティ設定ファイルのコピー

V7 で PDF セキュリティ設定を SEC ファイル (.sec) に登録して使用している場合、SEC ファイルを V11 環境へコピーします。

この作業は、開発環境、運用環境共に行う必要があります。

なお、旧バージョンで SEC ファイルを使用したセキュリティ設定を使用していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

### ■Windows 環境の場合

- ① V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の [sec] フォルダの拡張子 “.sec” のファイルを全て、V11 の [ユーザー設定(共通)] フォルダ直下 [sec] フォルダにコピーします。

### ■Linux/UNIX 環境の場合

- ① V7 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [sec] ディレクトリの拡張子 “.sec” のファイルを全て、V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下の [sec] ディレクトリにコピーします。

## 7. カラーパレットファイルのコピー

V7 で独自の色設定を作成して使用している場合は、カラーパレットファイルを V11 の導入フォルダに上書きします。

この作業は開発環境 (Design) にて行います。

なお、色設定を作成していない場合、以下の作業を行う必要はありません。

### ■Windows 環境の場合

V7 の Create!Form 導入フォルダ直下の拡張子 “.plt” のファイル (カラーパレットファイル) を全て、V11 の [ユーザー設定(共通)] フォルダ直下へコピーします。

### ③ 互換性に関わる項目の確認

ご利用の帳票資源ファイルが「互換性に関わる項目」に該当するかどうかは、Design 製品付属の帳票資源ファイルバージョンアップツール (以後、UpToV11) で確認することができます。UpToV11 で確認できる項目は、以下の内容です。

F. 同名変数の扱い (p9 参照)

G. 空データに対するデータ編集の扱い (p10 参照)



- H. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い (p10 参照)
- J. グラフ変数の間隔設定の扱い (p11 参照)
- M. 固定テキスト (プロポーショナルフォント) の文字間隔の扱い (p13 参照)
- O. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い (p14 参照)
- V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異 (p17 参照)

確認は以下の手順で行います。

1. V11 製品付属の “UpToV11” を起動します。  
スタートメニューの [Design ツール]、またはマネージャのメニュー [ツール] - [UpToV11] より起動できます。
2. 「変換元ディレクトリ」に V7 の帳票資源ファイルの作業ディレクトリを選択します。
3. 「互換性チェック」の「チェック」ボタンをクリックします。
4. 互換性に関わる項目に該当する帳票資源ファイルが存在する場合は、[互換性チェック] ダイアログが表示されます。また、V11 の [ユーザーデータ] フォルダ直下 [log] フォルダにチェック結果のログファイル “UpToV11\_Diff.log” が出力されます。
5. 該当する帳票資源ファイルが存在する場合、「互換性に関わる項目」に対応した [対処] を行ってください。

#### [互換性チェック] ダイアログの見方

- ・ファイルリスト

互換性に関わる項目に該当したファイル (fmd、dmp、sty) が表示されます。リスト内の各ファイルをクリックすると、そのファイルにおける互換性チェック項目が右側の [チェック項目リスト] に表示されます。

- ・ fmd ファイル (フォームファイル) のチェック項目

「F. 同名変数の扱い」「H. 1つのフォームファイルを複数のデータマップファイルから使用する場合のデータ編集の扱い」「J. グラフ変数の間隔設定の扱い」「M. 固定テキスト (プロポーショナルフォント) の文字間隔の扱い」「O. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い」「V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」に該当するかどうかを表示します。

各項目の [チェック項目リスト] での表示は、以下を参照してください。

- チェック項目 [チェック項目リスト]での表示
- F. 「同名変数の扱い」・・・「**変数名重複**」
- H. 「1つのフォームファイルを複数の  
データマップファイルから使用する・・・「**データ編集の競合**」  
る場合のデータ編集の扱い」
- J. グラフ変数の間隔設定の扱い・・・「**グラフ間隔**」
- O. テキスト変数の重ね合わせ設定の扱い・・・「**重ね合わせ(下へ)**」
- V. その他 FormCollect から Screen への・・・「**FormCollect 関連**」  
変更による仕様差異

該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、チェック項目リストに「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

※「M. 固定テキスト(プロポーショナルフォント)の文字間隔の扱い」のチェック項目のみ、以下の基準でチェック結果が表示されます。

- ・アップデートを行う環境にフォントが導入済みで、該当する設定が存在する場合  
→「**文字間隔**」項目に「○」が表示されます。
- ・アップデートを行う環境にフォントが導入済みで、該当する設定が存在しない場合  
→何も表示されません
- ・アップデートを行う環境にフォントが未導入の場合  
→「**文字間隔**」項目に「△」が表示されます。

※「V. その他 FormCollect から Screen への変更による仕様差異」のチェック項目のみ、[ログを開く]ボタンより仕様差異の詳細を確認することができます。

#### ・dmp ファイル (データマップファイル) のチェック項目

「G. 空データに対するデータ編集の扱い」に該当するかどうかを表示します。該当する設定が存在する場合は、「オブジェクト番号 (No)」「オブジェクト名」と共に、「**空データのデータ編集**」項目に「○」が表示されます。該当する設定が存在しない場合は、何も表示されません。

#### ④ 帳票資源ファイルの変換

帳票資源ファイルの変換作業は、互換性の問題に関わらず必ず行います。

V7 で使用していた帳票資源ファイルを変換ツール (UpToV11) を使用して V11 で使用できるように変換します。この変換作業は開発環境で行い、変換した V11 の帳票資源ファイルを運用環境にコピーまたは転送します。

1. V7 の帳票資源ファイル一式を Design V11 をインストールしたマシンにコピーします。
2. V7 の帳票資源ファイルを、Design V11 製品付属の UpToV11 で V11 の帳票資源ファイルに変換します。

### ※重要

- ① Print、PrintStage にて出力先とするプリンターは、予め開発環境と運用環境にインストールが必要です。また、出力先を Create!Form のプリンターID(PRTn、 $n \geq 1$ )で指定されている場合、V7 環境と V11 環境で同一のプリンターID に対して同じプリンターを登録することで出力先のプリンターID を揃えることができます。  
V7 のマネージャのメニュー「ファイル」・「プリンタの設定」より起動するダイアログにて以下の内容をご確認いただき、V11 のマネージャのツールボタン「プリンタ」にて同じ内容を登録してください。
  - 各プリンターID に登録されているプリンター名
  - 各プリンターID を選択後にボタン「トレイ設定」より表示されるプリンターの給紙トレイと Create!Form の給紙トレイ番号
- ② V7 ご利用の際にさらに下位のバージョン (V4～V6) の互換設定を行っていた場合は、V11 においてもその互換設定が必要となります。下位バージョンの互換設定につきましては、対応するバージョンのアップデートマニュアルに記載されております。アップデートマニュアルは Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードしてご確認ください。

## 5. 元号対応

V7 のデータ編集設定機能を用いて和暦の「平成」より後の元号を表示する場合、元号設定ファイル「era\_jp.dat」ファイルをテキストエディタなどで作成する必要があります。

和暦設定(データ編集)が行われている資源の存在有無の確認には、以下のチェックツールをご利用下さい。

<https://support.createform.jp/download/view/533.html>

元号設定ファイルは以下の手順で作成します。

ファイル名 : era\_jp.dat

era\_jp.dat ファイルフォーマット : 開始日(yyyy/mm/dd),元号(漢字),元号(漢字 1 文字),元号(英大文字 1 字)

※1 行に 1 つの元号を設定することが可能です。

ex)2019 年 5 月 1 日を開始日として元号「久里」を設定する場合

2019/05/01,久里,久,C

### ■Windows 環境の場合

V11 の[ユーザ設定(共通)]フォルダ直下に"era\_jp.dat"ファイルを新規に作成します。

### ■Linux/UNIX 環境の場合

V11 の Create!Form 導入ディレクトリ直下に"era\_jp.dat"ファイルを新規に作成します。

「era\_jp.dat」ファイルの詳細に関しては CreateV11 マネージャのメニュー[ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「1. インストール」-「1.6 導入環境の設定」-「1-6-9 元号対応」をご覧ください。

## 6. おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : [support-c@iftc.co.jp](mailto:support-c@iftc.co.jp)

## Create!Form

アップデートマニュアル[V7 → V11]

---

発行日 2018年8月3日 [第3版]

発行者 インフォテック株式会社